

都市再生整備計画 事後評価シート
青谷地区

令和3年3月

鳥取県 鳥取市

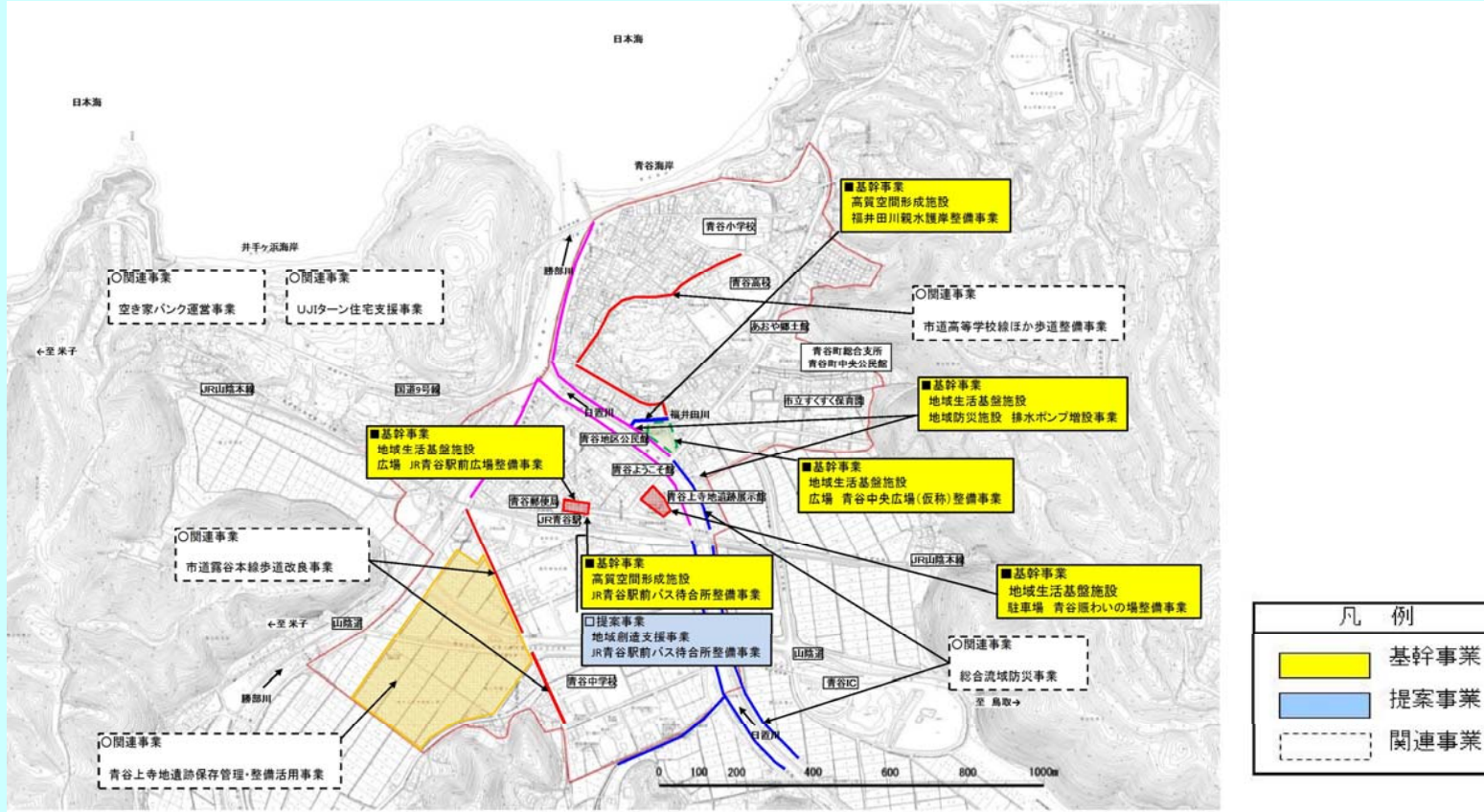
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鳥取県		市町村名		鳥取市		地区名		青谷地区			面積	125.0ha
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期		令和2年度		交付対象事業費		101.2百万円	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 青谷中央広場(仮称)、JR青谷駅前広場、排水ポンプ増設、青谷賑わいの場、福井田川親水護岸、JR青谷駅前バス待合所										
	当初計画から削除した事業		基幹事業 市道露谷本線、市道高等学校線 サイン整備 中町通り修景整備 照明灯整備			削除/追加の理由 市道：道路事業で整備するため関連事業へ移行 サイン：維持管理を地元で行うことについて了解が得られなかったため 修景整備：街なみ形成ガイドラインの策定が困難となったため中止 照明灯：地元負担の了解が得られず中止			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし 影響なし 地域資源の活用に関連するため、数値目標を下方修正 影響なし				
	新たに追加した事業		提案事業 街なみ形成ガイドライン策定事業、まちづくりワークショップ事業、和紙灯ろう設置事業			住民合意が得られず事業中止			地域資源の活用に関連するため、数値目標を下方修正				
	交付期間の変更		当初	平成26年度～平成30年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 なし					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期
	指標1	憩いの場に対する満足度	%	3	H25	18	H30	-	3	△	あり なし ●	アンケートの設問内容から、特定の憩いの場の整備がイメージできておらず、目標値を達成していないものの、「不足」「やや不足」と答えた割合が減り、「普通」が増えていることから、一定の効果が得られたと考えている。	令和2年11月
	指標2	地域資源の活用に対する満足度	%	6	H25	8	H30	-	10	○	あり なし	福井田川親水護岸や青谷中央広場等が整備されたこと、青谷上寺地遺跡保存管理・整備活用事業が進行中であることから、満足度の向上につながった。	-
	指標3	地区内の居住人口	人	2,357	H25	2,271	H30	-	2,066	×	あり なし ●	居住環境改善に関する都市基盤整備は進められてきたが、全国的な人口減少や少子化の影響から、人口減少率を抑えることは出来なかった。なお、青谷地区の減少率は、青谷町全体に比べてわずかに緩やかな傾向にある。	令和3年4月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	指標1	憩いの場に対する満足度2	%	3	H25			-	46		アンケートの設問内容に特定の憩いの場の整備をイメージ写真で伝えることで、高い満足度を得ている。		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 青谷中央広場(ようこそ広場)では、地域住民の憩いの場として利用のほか、青谷地域にぎわい創出実行委員会主催による月1回の市場や果物生産者とミュージシャンによるライブ活動が行われている。また、地域住民による芝、植栽、草取りなどのボランティア活動やドクターヘリの離着場として利用されている。 青谷賑わいの場では、買い物や上寺地遺跡展示館への来客での賑わいが増え、駅前広場では、イルミネーションの点灯や各種イベントが行われるなど、活発に利用されている。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況					今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

青谷地区(鳥取県鳥取市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 誰もが住み続けたいまち・住んでみたいまち 目標1: 誰もが憩うことができる空間を創出することで、地域コミュニティを活性化する。 目標2: 地域資源の有効活用により、魅力あるまちづくりを推進する。 目標3: 防災機能の強化や人に優しい道路空間の確保により、安全で安心して暮らせる居住空間の形成を図る。	憩いの場に対する満足度	単位:%	3 H25	18 H30	3 R2
	地域資源の活用に対する満足度	単位:%	6 H25	8 H30	10 R2
	地区内の居住人口	単位:人	2,357 H25	2,271 H30	2,066 R1



	基幹事業
	提案事業
	関連事業

まちの課題の変化	交流促進空間の創出→中央広場、賑わいの場、駅前広場、バス待合所、親水護岸等の整備により、各種イベント等が開催されるなど、住民相互の交流を促すことができる空間を創出することができた。 中心地での歴史的・自然的資源の活用→青谷中央広場や福井田川親水護岸整備等により、自然的資源を活用したまちづくりが進められている。 大雨時の浸水被害対策→排水ポンプの増設により、浸水被害を以前より抑えることが可能となった。 通学路の歩行者の安全確保→関係者による通学路点検で危険箇所の確認が行われた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	持続的なまちづくり体制の構築: 住民の主体性向上の気運が高まる中、地区の課題解決に向けた地元主体のまちづくり体制の支援を行う。 施設等の適正な維持管理: 整備された施設等を当初の目的に沿って、快適に利用できる環境を維持することが必要である。 総合流域防災事業の早期完成: 堤防の嵩上げに等により、河道の流下能力を向上させるなど、災害に強い地域を作る。 地域資源を有効活用した魅力あるまちづくり: 「青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画」に基づいた整備に合わせて、地区住民が誇れるまちの実現を図るため、より多くの住民が主体的に参画し、地域を盛り上げていくことができるよう協働・連携していく。 道路等の権利者との合意形成: 権利者等との協議・合意形成に向けた交渉を継続していく。